

教訓を基に今後の災害に備える

東京さすけなぶる

首都直下地震に備える災害教訓ワークショップ

首都直下地震や南海トラフ巨大地震、東京・荒川流域の大規模水害など、これから発生が予想されている自然災害に対して、私たちはどのように備えたらよいのでしょうか。それは、過去の災害の教訓から学ぶことです。福島大学・さすけなぶる研究会では、2011年に発生した東日本大震災での避難所における教訓を収集し、「さすけなぶる」という体験型の防災学習パッケージにまとめました。



日時

2019年
8月4日(日)
13:00 ~ 16:00

定員

30名

参加費

無料

会場

東京大学 本郷キャンパス情報学環本館 地下一階
オープンスタジオ 中山未来ファクトリー
(東京都文京区本郷7-3-1)

主催 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター さすけなぶる研究会
共催 東京大学 大学院情報学環 総合防災情報研究センター

教訓を基に今後の災害に備える「東京さすけなぶる」体験会

全国で多発している地震・洪水などの自然災害。東京都内でも、さまざまな被害が想定されています。従来は、避難場所の確認や非常食の事前準備などの備えが大切とされてきました。しかし、東日本大震災以降、モノの防災だけでは対応しきれない事例がたくさん起きています。「モノ（備え）の防災」に加えて「考え方の防災」が必要となってきています。

この「さすけなぶる」は主に東日本大震災時の避難所で起きた様々な事例を「モノ」ではなく「視点（考え方）」で解決するマインドを身に付けていただくためのシミュレーションワークショップです。今回は東京大学大学院 情報学環 総合防災情報研究センターと共催で、首都・東京の地域特性に合わせた「東京さすけなぶる」の体験会を開催いたします。

参加対象

- ・東日本大震災など過去の災害で被災地支援を行ってきた法人・団体の方
- ・避難所や要配慮者対策など、地域の防災対策に関わる法人・団体の方
- ・過去の災害の教訓を次の世代に伝えていきたい思いをお持ちの方

プログラム

(1) 「福島で何が起きたのか？」さすけなぶる紹介の場

「さすけなぶる」を開発するきっかけとなった、東日本大震災の福島の大規模多目的ホール・ビックパレットふくしま避難所で起きた事例を紹介し、さすけなぶるの背景や目的を説明します。

(2) 「東京さすけなぶる」体験会

東京の地域特性に合わせたオリジナルのバージョンである「東京さすけなぶる」を使って、災害の教訓から基本的な対応のスタンスを学びます。

【メインファシリテーター】

天野 和彦（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授）

大槻 知史（高知大学 地域協働学部 准教授）

【東京さすけなぶるファシリテーター】

三平 洵（一般社団法人地域防災支援協会 代表理事）

吉田 まり子（有限会社ロータスパレット 代表取締役）

(3) 首都直下地震に備える「さすけなぶる」活用座談会

体験会での経験を通じて、参加者の皆様と、さすけなぶる研究会のメンバーと一緒に気楽な形で語り合うことで、これから先「さすけなぶる」が活かされていく新たな形を考えます。

13:00	13:30	13:40	14:10	16:00	17:00	
受付	開会	(1) 福島で起きたこと	(2) 東京さすけなぶる	休憩	(3) 座談会	閉会

申込方法

(1) 公式サイト (<http://www.sasuke-nable.com/>) の専用申込フォームから申し込む

(2) 別紙の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、「さすけなぶる事務局」

(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター) へファックスを送る。

- ・定員30名の先着順となります。定員に達し次第、締め切らせていただきます。
- ・参加申込締め切り 2019年7月26日（金）15時
- ・参加費は、当日会場でお支払いください。

<申込先> 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター さすけなぶる事務局
〒960-1296 福島県福島市金谷川1
電話：024-504-2865 FAX：024-548-5244